

全国聾学校体育連盟 大会運営に係る緊急時対応マニュアル

本マニュアルは、本連盟が主催する大会において事故の防止対策および事故等が発生した場合を想定して、事前対策、発生時の応急対策、それに引き続く事後対策について規定する基とする。

（１）事前対策

大会を主管する地区連盟は、事故が発生した場合を想定し、大会会場周辺のＡＥＤの設置個所を確認するとともに会場周辺の救急病院を掌握しておくこと。また、必要に応じて大会会場近隣の医療機関に対応依頼等を行い、調整しておくこと。尚、大会会場には、医師、看護師、養護教諭等を配置し、応急手当等ができる体制は準備するものとする。

また、会場準備については、危険個所を確認する等の事故防止には万全を期すとともに、下記事項について事前対応の準備をしておくこと。

- ① 当日の気象情報（降雨・降雪・洪水・雷・猛暑など）
- ② ①等の影響による公共交通機関の運行情報
- ③ 感染症流行に関する情報
- ④ 避難場所・誘導経路の確認
- ⑤ 熱中症指数測定機器の準備
- ⑥ ＡＥＤ設置箇所の確認

（２）応急対策

- ① （１）①②のことに、対応が必要な場合には、以下のような手順と対応基準で進める。

ア）大会２日前には、本連盟３役（会長、理事長、事務局長）と大会実行委員長（副会長）、大会事務局長（主管地区常務理事）で、実施可否、日程変更、その後の対応について協議し、その結果を参加校および関係機関に周知する。

イ）事前情報として、開催地周辺に、大会当日に台風等の影響により、警報等の気象情報が発出される予想がされる場合には、大会の中止、大会日程の変更を検討する。

ウ）大会前日あるいは当日情報として、開催地周辺に、警報等の気象情報が発出される予想がされる場合には、受付開始時刻を遅らせる、大会終了時刻を早める、必要に応じて警報が解除されるまで会場内で安全確保に努める等、大会日程（競技運営方法の変更も含む）の変更を検討する。

エ）開催地以外の地域に、台風の影響等による警報が発出され、参加校の到着時刻が遅れる、帰郷時刻を早めるあるいは参加ができない場合には、大会日程の変更を検討する。（公共交通機関が何らかの影響で不通になる場合も含む）

オ）エ）の「大会日程の変更を検討する」とは、大会日程を変更することで、多数の参加校が予定通りの競技参加ができる形になるということである。また、前日練習および監督会議については状況に応じて中止する場合もある。

カ）エ）のような状況においても、式典については参加できる学校があれば実施する。

キ）エ）のような状況において、競技を実施するにあたっての参加校数は特に定めないが、競技運営方法を変更する場合もある。

- ② 大会当日に事故や災害等が発生した場合には、【別紙】「大会当日緊急時対応」による。

（３）雷への対応について

- ・陸上競技については、事前に気象情報を等を確認するなど、雷の発生に細心の注意を払い、落雷事故防止に努める。
- ・雷光、雷鳴を察知したら、直ちに監視体制（大会事務局および競技団体で協議）をとり、必要に応じて避難誘導をする。
- ・屋外での活動をすべて停止する。
- ・再開は、雷鳴雷光が無くなってから３０分程度を基本とし、気象情報を参考にしながら大会事務局および競技団体で協議して決定する。

（４）感染症への対応について

- ・参加校に対し、大会参加前の体調管理の徹底および決して無理な参加をしないよう周知する。
- ・大会中の体調不良については、参加校および関係者に対し、大会事務局への早期報告を促す連絡をしておく。